

石川県内の川柳会と交流を進めます。

「和」川柳社会報 六六八

定例会 二〇一八年五月二八日(月)

定例会 於：金沢市金石町



卯辰山句碑の解説板、ただいま改修中。昔の写真を貼り、簡単な紹介もしました。6月末、新しくなります。

皆で選んだ五月の秀句（最多数の評価を得た句）
正義より忖度が勝つ政治劇
亀公子

川柳で侵略戦争と闘った吾者がいる。旧盛岡町（現かほく市）生れの鶴彬（本名・喜多二 1908～1938）。日本が中国に全面的な侵略戦争を始める中、反戦の立場で川柳を詠み、特高に逮捕され1938年9月14日獄中死した（29歳）。今年は没後80年にあたり、高校を初め全国各地で記念企画が計画されている。



鶴彬の絶筆となった川柳
しほの染の寒よりへ戦車と靴の紙
屍のあないニユース映画で勇ましい
出征の門標があつてかららんとどうの小店
万歳とあげて行った手を大陣においで来た
手と足をもいだ丸太にしてかへし
胎内の動き知るころ骨がつかき

平和を希求した川柳人

6月28日(木)

鶴彬

つるあざら

金沢・大人の授業

講師：宇部 功さん
(盛岡市の元小学校長さん)

- ◆ 近江町いちば館 4F
- ◆ 時間：午後 6：30～
- ◆ 資料代として ¥500

鶴彬の墓地在盛岡にあります。宇部さんは現代から130年以上「鶴彬と平和」の授業を行っている鶴彬研究者でもあり、鶴彬の句を通して子どもたちに海路文学や人の生き方を語ってこられました。この日の午前、生地盛岡の盛岡小学校では同日の授業をおこなうことになっています。

主催：鶴彬を顕彰する会
協力：和川柳社 / ナギの会 / いしかわ歴史教育文化センター /
協力団体呼びかけ中です。 (連絡：津田 寛 090-9445-1302)
鶴彬を顕彰する会 <http://tsuranakim.jp/> 鶴彬資料室：たかまつ まちかど交流館3階（かほく市栗橋7-56-1）

盛岡の元校長先生・宇部功さんの「大人の授業」が金沢で開かれます。ぜひご参加をよろしく。

← 5月の秀句、参加者全員の評価を得た句が4句出た中、投票で選ばれました。

◆ 目次

川柳互選									
課題「休」
雑詠
自選句
川柳を語る
今月の秀句のこと／改めて鶴彬の 絶筆を読む／鶴彬の時事川柳
応募案内 鶴彬川柳大会
百万石まつり考
五月例会報告
編集後記
六月例会
投稿締切
課題「話」
三句以内吐
雑詠 三句吐、自選句など

5月の 川柳互選

◆課題「休」「休む」

(互選) 一人2句吐

- | | | |
|---|------------------------------|-----|
| 2 | 連休もノリ弁書類の山づくり | 立東爺 |
| 2 | 休みの日我先に寝る楽しさよ | 和子 |
| 2 | 馬鹿も休み休み言えよ安倍政治 | 未知子 |
| 1 | 南北の 火種が消えぬ 休戦日 | 広助 |
| 1 | コンビニの深夜月までも煌煌 | ダン吉 |
| 1 | 虚偽ばかり 休み休みの 疑惑なり | 広助 |
| 1 | アベ総理 国会休みも ゴルフ行き | 宏 |
| 1 | 財務では休んだ正義闇を切り | 一角 |
| 1 | 働き方 改革の下で ^{もと} 休み無理 | 宏 |
| 1 | 獣医大休み休みにウソがばれ | 一角 |
| 1 | ロボットも休みたい日もあるだろう | ダン吉 |
| | 休みの日自主トレしては力つけ | 和子 |
| | 休み方改革夢想幾年月 | 未知子 |

- | | | |
|---|-------------------------------|-----|
| 2 | 休戦を対話重ねて終戦へ | 林 |
| 3 | 原発列島吹き上げるぞ休火山 | 大峰 |
| 3 | テッペン ^の 嘘吐く口は休まない | 立東爺 |
| 3 | 休戦協定圧力だけで打ち壊す | 大峰 |
| 3 | 国会は休み国民蟻のまま | 徹乗 |
| 4 | 休戦ライン ^を 跨ぎあつてる異母兄弟 | 亀公子 |
| 4 | 休みの日子育て介護安倍知らず | 徹乗 |
| 5 | 明友の嘘と暴言休みなし | 林 |
| 5 | 改ざんに休日返上までする愚行 | 亀公子 |
| 7 | 年休は絵空事です派遣です | 白眞弓 |
| 7 | 高プロは死んではじめて休みとれ | 白眞弓 |

◆「雑詠」(互選) 一人3句吐

- | | | |
|--|-------------------|-----|
| | 子の笑顔思わず上がる口の端 | 未知子 |
| | 正直の頭に宿れ福の神 | 一角 |
| | 物価高一円玉が生残り | 大峰 |
| | 何でも彼でもトランプ合わせ安倍様は | 未知子 |

1	詰んでると言われ続けて数ヶ月	白眞弓
1	無恥になる閉じた心と耳のせい	雅靖
1	稲田ノーイラク隠ぺい誰が指示	和子
1	佐川氏 改ざん黒塗り 不起訴なの	宏
1	人不足奴隷の様に選りだす	大峰
1	デリートキー押してさつぱり派遣切り	白眞弓
1	嘘の答弁重ね続けた五年半	徹乗
1	知恵出せよ もんじゅ廃炉に 一兆円	宏
1	アメフトの 無防備タツクル 極非道	宏
1	「戦後体制」否定すれば残る戦前	立東爺
1	名ばかりの祖国復帰が四十六年	一角
1	恥じるとは耳と心が合わさって	雅靖
1	働き手奴隷労働取り入れる	和子
1	嘘をつき言い訳をして恥晒し	英人
2	気がつけば三本の矢は折れていた	徹乗
2	イケメンも嘘ツクメンに見えてくる	雅靖
2	都合よい記憶ばかりが甦る	ダン吉

2	晴れぬ日よせめて窓だけ全開に	ダン吉
2	狛江市長前と後では違いすぎ	和子
2	銃乱射 規制できない 病む社会	広助
2	子が見てる日大騒動恥ずかしい	未知子
2	その後を狙うセンセイ同じ主義	立東爺
2	国民は 政権の詰 読み切った	広助
3	二十歳の子盾におとなが逃げまわる	英人
3	あの顔でこの後に及んでシラを切り	一角
3	平成の落日祈り深くなる	亀公子
3	戦ノー古い一句であるものか	ダン吉
3	あの口を止める一票用意する	立東爺
3	無理矢理に空から降って来る安保	大峰
3	セクハラは閣議決定でも消えません	晃弘
4	政官に 偽証権まで 有るらしい	広助
4	セクハラ罪ないと閣議で決めました	徹乗
4	出すものはウミではなくてウソばかり	林
5	付度の術で保身のちようちん屋	亀公子

- 6 今日もまた息する如くウソを吐き 白眞弓
- 7 ウミ出すと言った先から舌を出す 林
- 7 正義より付度が勝つ政治劇 亀公子

今月の
自選連作

自選句

前号に掲載予定だった能沢さんの句ですが、パソコントラブルが発生し、今号に掲載します。能沢さん、ご容赦をお願いします。(立東爺)

◆ 自選句

能沢 榮

(高松での行き帰りで、海を見乍ら)

白波の呖ゆる海道鶴想う

(日米両トップが世界を騒がせて…)

目先の利しか考えぬ両トップ

次々と波風起こすお二人さん

地球を俯瞰するんじゃないかった？晋三さん

(原発にしがみつくと情けない政権)

口開けば「民に寄り添う」？うそばっか被災者に寄り添う心は露ほども

被ばく者も被災者も目に入りません

オンカロを作ってから言え「再稼働」

何枚目？「国民守る」という舌は

何枚目？「謙虚・丁寧」と言う舌は

デスノートあつたら書きたい○○の名を

デスノートあれば迷わず○○シンゾー

(石坂浩一のTVCMを見て、ガツカリ)

石坂さん原発CMまじいよね

(私のお出かけ時の恒例です)

どこ行つた！メガネ・ケイタイ・カギ・サイフ

◆ 自選句「闘病」 白眞弓

散歩すら肩で息する退院後

患者には患部身体の一部です

カラフルな手ぬぐい巻いてハット被せ(のせ)

最強の薬最悪の結果生む

色黒く波打つ爪をじつと見る

サプリよと次々届く身は一つ

◆ 自選句 松 和子

坊ちゃんいつまでしらきるの

坊ちゃんいつまで国を牛耳るの

モリカケで我が世の春と言わせない

加計さまいいね連発許さない

狛江市長馬鹿にするな女性たちを

◆ 自選句 中野 林

冷戦の策を弄して蚊帳の外

フンドシを借りてシンゾウ拉致語る

終戦がアベの野望を打ち砕く

今日もまた総理せつせとウソづくり

真つ黒い腹で真つ赤なウソを言う

平和ではやって行けないアベ政治

九条の世界に住めぬアベ一族

改憲の旗に縫(すが)ってよろけてる

落城を前によれよれ改憲旗

◆ 自選句 前田 大峰

南北の平和の野火が燃え上がる

核廃棄晋三蚊帳の外でごね

日本中オスプレ飛ばす安保ボケ

属国の制空権米軍機の独り占め

見せたくない資料真黒に塗りたくり

行政私物化ガツポリ血税撒き散らし

介護難民格差に爪付き堪えて居る

逃げながら民主主義に泥を掛け

公文書改ざん本音吐かぬ安倍夫妻

加計疑惑トカゲの尻尾山と成し

川柳を語る

五月の秀句のこと

伸子さんありがとう

失せたのは書類にあらざる正義なり 伸子

この句は「和」川柳社会報六六六（三月号）に載っていますが、珍しく句会出席者全員が丸を付けた句です。この句がきつかけで次号（四月）から「今月の秀句」を選ぶことになりました。伸子さん有難うございました。

この句が生れてから三カ月ぐらいになります。が、正義はますます遠ざかっています。醜い大人のエゴを子ども達に説明する言葉が見つかりません。株価が安定しているからとか、支持率がそんなに下がらないから、とか言われています。無力感で一杯になります。（白山未知子）

高梁こうりやんの実りへ戦車と靴びようの鉾

屍こゝろのみないニュース映画で勇ましい

出門標でもんひょうがあつてがらんだうの小店

万歳とあげて行つた手を大陸において来た

手と足をもいだ丸太まるたいにしてかへし

胎内の動き知るころ骨がつき

改めて鶴彬の絶筆を読みかえす

六月二十八日に計画されている「鶴彬・大人の授業」のチラシを見た知人から電話が掛かってきた。

「チラシに鶴彬の作品を紹介しているが、最初の句、『高梁の実りへ』の句を最初に持つてきても分からない人がいると思う。最後の『胎内の動

き』の句を最初に持つてきた方が分かりやすかったのではないかと。」と。

私の返事は「この並びは鶴彬のもので、絶筆になった作品だし、これには鶴彬の思いがあるのではないか？」漠然と返事を返した。

そう言ったものの、今まで連句作品の順番なんて考えたこともなかったもので、改めて「鶴彬句集」を開いて読みかえしてみた。

じっくり読んでみて、この順はやはりこの順でなければならぬと確信したのである。

この順番が見事に戦時下の社会を描いている。

まず第一句で大陸での日本軍の描写、次に万歳と送り出した兵隊の活躍と戦果で喜ぶ国民の姿、一方その陰で寂れて若者がいなくなつて寂しい町並みの様子、そして次々と帰つてくる傷病兵、時に手や足もなくなっている。そして戦死広報が身重の妻の元に届き、涙にくれる家族の様子。こ

うした日本社会が五・七・五の六句、字数にすれば九十一文字で、ありありと描写されている。頭の中でいろいろ順番を変えてみたが、この順しかあり得ない。その作品と並べ方で国家への怒りを冷静に描き切っている。

これまで「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の句が鶴彬の最高傑作と感じていたし、鶴彬の作品に讃辞を惜しまない多くの人を説得させる作品だったが、六句を連作としてまとめて観賞することで、その一句一句も意味がより深く伝わってくる。鶴彬が卓越した川柳作家であることを証明している、と感じた次第である。著名な川柳作家が「もし戦後まで生きていたら、さぞや短詩文学の大家になっていただろう」と表していたのもうなずける。

(立東爺)

鶴彬の時事川柳

連作「火箭集」は生き神事件
を詠んだのか？ 周立東爺

「火箭集」
かせん

鶴彬

生き神のネ口の如くにおかす初夜

神霊がのり移ったとさかるなり

鶴彬の作品には社会を詠んだ多くの句があるが、時々の事件に触れた、今風にいう時事川柳にあたりそうな句がないのである。しかしこの一九三六年十月「蒼空」に載った連作は例外的に生き神をテーマに「火箭集」と題して七句を連作にしている。

（火箭の意味：火をつけた矢。敵の建造

物や物資を焼き、また味方との信号に

使う。中国語ではロケットの意味。）

筆者はこの句に触れたとき、「生き神」は昭和か

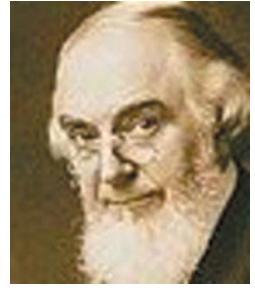
ら平成へ代替わりのとき真夜中に行われる大嘗祭の様子を描き天皇のことだと思っていた（大嘗祭への考察は小生の「現代の落首―大嘗祭考―」を参照）。

歴史を振り返るまでもなく、明治政府は日本書紀、古事記の『政府解釈』をもって天孫降臨から「天壤無窮の神話と惟神の宝祚」を国家原理とし、これに対するいかなる疑問、批判、国家神道以外の宗教を抹殺し、これを国民に思想的に強制し、侵略戦争に突き進んだ。

さて、鶴彬が詠んだ「生き神」の句でわかる生き神の様子と大嘗祭の内容が異なるし、昭和代替わりから十年も経過しているので、不思議に思つて「事件」がなかったのか調べてみた。

あった。

前年の一九三五年（昭和一〇）に「ほんみち不



大西愛治郎。「天皇衆との対決した民衆宗教」と知られ「ほんみち教団」組。(1881.8.26～1958.11.29)

敬事件」が起きている。最高裁判決までずっと続いてきたと思われる。

この事件を説明する前に「火箭集」の句を紹介。冒頭の二句に続き、

- ・ 神殿にダブルベットとホルモン剤
- ・ 春画ひろげたまゝ生き神様の枕元
- ・ 生き神といふ人間でないけものなり
- ・ 「番号札」生き神様のなれの果ての計六句である。

「生き神事件」とはなにか

これは「ほんみち不敬事件」と呼ばれているもので、一般に「天皇制と対決した民衆宗教」と解

説されている。ほんみち教は大本教を元にした傍系の教団で、大本教の教組中山ミキが弾圧が元で死去した後、No.2の大西愛治郎が立ち上げた教団である。「天照大神の霊を受け継いだ中山ミキの言葉こそが絶対的な神言」と説き、当時二十万人の会員がいたという。大本教を初めこの「新興教団」の拡大は、国家にとって都合が悪い。天照大神の神言をもって自らの正統性、権威として日本を支配し大陸侵略を目指す国家と両立できるわけがないからだ。

警察の弾圧は熾烈を極めて壊滅に教団を追い込み、新聞などは激しい邪教キャンペーンを連日繰り広げたのは言うまでもない。昨今のワイドショーを想起させる。

天皇の神格は争点に出来ない事情

裁判では、ほんみち側は「我々の考えを妄想というなら、現天皇が天照大神の万世一系の子孫で

あらひとがみ

現人神というのは、国家全体が妄想にかられて狂人と化しているのではないかと追求する。国は天皇の神格性に触れるため反論出来ず、音を上げて大西愛治郎を鑑定人の「本件行為ハスベテ此ノ妄想ノ産物ナリ(行為はすべて妄想の産物である)」を採用し、狂人として無罪にしてみましたのである。(これらの情報はネット検索「大西愛治郎」で調べることができる。)

鶴彬が得た「ほんみち教団」の情報はおそらく、新聞からの邪教キャンペーンからであろう。もし裁判を傍聴でき、大西愛治郎の主張に触れることが出来れば、もつと違った観点で「生き神・天皇」を考察出来たかもしれない。天皇制の本質を突いた川柳を詠んでいただろうと思うのだ。

(2018/6/1)

第23回「鶴彬」川柳大賞募集

主催…かほく市川柳協会・鶴彬を顕彰する会

後援…かほく市教育委員会・かほく市文化協会・

全日本川柳協会・石川県川柳協会・和川柳社・

北陸中日新聞

◆作品内容…現代を鋭く風刺した新しい感覚の川柳

◆応募規定…未発表作品・応募資格不問・一人二句

◆選者…福村今日志(石川県川柳協会) / 伊東志乃

(富山県川柳協会) / 赤池加久(宝達川柳会)

／遠田亀公子(かほく市川柳協会)

◆応募期間…30年6月10日～7月31日

◆投句料 1000円(〒定額小為替ご利用を)

◆大賞 1万円(副賞5千円相当のかほく市特産品)

優秀賞(副賞5千円相当のかほく市特産品)

佳作(副賞3千円相当のかほく市特産品)

入選(記念品)

◆発表 9月2日(日) 鶴彬忌川柳大会会場にて

(応募・問い合せ) かほく市教育委員会

生涯学習課内 第22回鶴彬川柳大賞応募係



【百万石まつり】 前田利家万歳で いいのか？

周 立東 爺

写真は祭り前夜の子どもたちの提灯行列

金沢は六月に入ると大騒ぎになる。「百万石まつり」が行われるからだ。このイベントに旧市内の町内会や小学生の子どもたちも前夜祭で提灯行列に動員される。これが何十年も続き、金沢の町は利家がつくったとされて「前田利家万歳^{マンセ}」が市民の頭に刷り込まれてきた。冷静に考えれば、おかしいことなのである。金沢の町を作ったのは加賀一向一揆の衆で「百姓の持ちたる国」と呼ばれ百

第32回 鶴彬忌川柳大会

主催…かほく市川柳協会

後援…石川県川柳協会・かほく市教育委員会・かほく市文化協会・北陸中日新聞・鶴彬を顕彰する会

日時…平成三十年九月二日(日)

場所…高松産業文化センター・大ホール

開場…午前九時三十分(受付開始)

出句〆切…午前十一時(時間厳守)

・席題「共通当日発表」 金沢川柳句座 浜木文代選

・席題「共通当日発表」 宝達川柳会 赤地 加久選

・宿題「積」 寺井川柳会 小西涼成選

・宿題「るんるん」 こまつ川柳社 東野やす子選

・宿題「跡」 蟹の目川柳社 岡本聡選

・宿題「気」 福野川柳社 六反日出緒選

※出句数 宿題二句提出 献句一句ご持参ください。

・表彰 各題ごと秀句賞一句かほく市川柳協会賞 北陸中日新聞賞

最優秀句賞一句(石川県川柳協会賞)

・会費 三千円(昼食・発表誌呈・懇親会費含む)

・投句料 五百円・〆切八月三十一日(金)必着

・投句先 干かほく市高松川柳協会(小山広助方)

問い合わせ: TEL/FAX・076-281-1201・090-4323-1754

年の自治政府が続き、金沢は御山御坊おやまごぼうの門前町として発展していたからである。金沢の都市の発展を考える時、一向一揆を抜きに語れないはずなのである。

その一向一揆を弾圧し勝利者として金沢に入ったのが前田利家である。以来、金沢の住民は前田家への服従と懐柔政策が続き、今日がある。

「なぜ金沢人は、はつきりものを言わないのか？」

よく言われることだが、金沢の人間は、はつきりものを言わない。この風土を作り上げたものは何か？ と考えてみた。

《利家と根絶やし》

まず、一向一揆弾圧の壮絶な記録を確認してきた。

前田利家が信長の命で大量虐殺をした直接の下人であった。そのころのすさまじい記録が残されている。「一向一揆文字瓦」「呪いの瓦」などと呼ばれている古びた丸瓦で、武生（現越前市）郊外味真野にある小丸城跡で発見されている（写真）。文章の大意は次のとおり。

「この書き物を御覧になって、後世に伝えていただきたい。五月二四日に一揆が起り、前田又左右衛門尉（利家）殿が、一揆の者どもを千人ばかり捕まえられて、磔、あるいは、釜に入れてあぶり殺す成敗をされた。後世のために一筆書き留める」

◆原文

此書物後世ニ御らんしら：手御物かたり可有候、然者五月二十四日いき（一揆）おこり、其のまま前田又左衛門尉殿いき（一揆）千人はかりいけとりさせられ候、御せい

はい(成敗)ハ、はツつけ(磔)、かま(釜)
 二い(煎)られ、あふられ候哉、如此候、
 一ふて(筆)書ととめ候

この記録は武生市郊外での記録であるが、加賀の一向一揆終焉の地が旧鳥越村である。こうした一揆鎮圧をきっかけに、江戸時代から金沢人はお上にものを言わなくなったのではないかと、十年ほど前、こういうことを感じて川柳にしたことがある。

一揆から 逃げて子孫が 世に栄え



「一向一揆文字瓦」

根絶やしの恐怖から逃れるため、一揆から多くの門徒が逃げたり寝返ったり密告者となった。その生き残りの民衆が金沢の町をつくったはずである。現在、金沢に住む多くの人は、こうして生き残った子孫であろう。小生もしかり。父方の先祖は福井の大野らしい。親から子へ、子らか孫へ、「お上に盾突くんではない」と言い伝えられたはずだ。

《もう一つの事情 幕末と加賀藩》

対局にいた支配者(武士)の側の歴史的事情も検討しておきたい。幕末のことだ。

最大の外様大名として歴代の藩主は、常に幕府へ気兼ねしたことは有名なことであるが、これにも増して、あるきっかけがあった。

◆前田慶寧(加賀藩最後の藩主)

幕末動乱を経て明治になるが、加賀藩から一人

も新政府に参加していないが、勤王派といわれる武士は加賀藩にもいた。藩の中枢にたくさんいたのである。それどころか、最後の藩主・前田慶寧（よしやす）自身が勤王派だった（写真）。

◆加賀元治の変

幕末の加賀藩の動きを検証しておきたい。

一八六四（元治1）年、京都で蛤御門の変（元治の変）が起こった。勤王の長州藩士が会津や薩摩の藩士と闘い敗北し、幕府による長州征伐が始まったのだが、慶寧は



世継ぎの身分で京都の加賀藩邸にいた。攘夷論と開国論で揺れる中、攘夷の立場で加賀藩は長州の代弁者だ

った。

側近の家臣達は、桂小五郎など長州勤王派と通じ、天皇を近江海洋（加賀藩領Ⅱ現マキノ町）へ移す密約も交わしたといわれる。藩の保守派・大老などは、慶寧や側近の動きをやめるよう強く進言。藩内は二派に別れ混乱するが、慶寧は一貫して尊王派側近を守り大老たちを諫めている（ちなみに、京都の加賀藩邸と長州藩邸はすぐ近くである）。

しかし、長州藩士の決起が敗北し、幕府から、慶寧の京都退去を求められ状況は一変する。藩はこの直後、慶寧側近の勤王支持派四十名近くを処刑（打ち首、生胴、切腹…）する。加賀藩から勤王派は一掃された。維新四年前の事件である。

◆長州と加賀

長州藩では、この事件で佐幕派が復活するが、翌年には高杉晋作など勤王派が藩の実権をにぎ

り、幕末動乱へ突き進んでいった。大政奉還、明治維新と劇的な展開。おそらく加賀藩すべての藩士は、四年前の事件を振り返り、無念の唇をかんだのではないか。犠牲者の親族筋、切腹や打ち首の命を下した藩の中枢部、血に手を染めた「同僚」たち、そして慶寧の思いは如何なものであったか。

◆初代加賀藩知事

薩長中心の明治新政府は、金沢藩知事に任命したのが慶寧である。元勤王派だった「経歴」を評価された結果だと思われるが、本人にしてみれば、数年前の重い荷物、側近の多くが犠牲となった事実を背負っての辛い赴任だったはずである。犠牲者の元側近たちへの懺悔の思いでいっぱいだったのではないか。慶寧の心の重さが「県のお役人」と全体を支配しただろうと思うのだ。

◆慶寧の福祉政策の源泉

慶寧の言葉は残されていないが、慶寧の仕事として、卯辰山開拓、貧民救済の撫育所や養生所（病院）設立、キリシタンに対する温情政策などがあげられるが、彼の福祉政策は、加賀元治の変と無関係ではないと思うのだ。

以上のように、支配者側と民衆側の歴史が一体となり、はつきり言わない金沢特有の風土を作っていたのではないかと考えている。

この加賀元治の変の犠牲者は四十余名。友人が「先祖がこの事件で犠牲になったそうだが、詳しくは知らない」とのことでした。

この元治の変を含め、幕末の激動の加賀藩の日誌が郷土研究者の努力で「加賀藩政資料」として活字化されている。（了） 2018/6/1

◆五月例会報告

先の例会（総会）で岩原さんが代表を退任され、当面は代表なし・合議制で運営することになりましたが、他の柳社との交流やイベントへの呼びかけなど交渉事があると、代表がいらないと面倒があることが分かり、代表を決めることになりました。また運営に必要な事務処理や会計業務を分担をはっきりすることになり、次の役員を決めました。

和川柳社 6月例会の案内

- ◆ 6月27日（水） ◆ 〆切：6月23日（土）
- ◆ 課題句「話」3句以内吐 ◆ 自由句：3句吐
- ◆ 自選句、連作、エッセイ、川柳論、「ご意見など」お寄せ下さい。 ◆ 会場：金沢市金石にて
- ◆ 句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

代表・周立東爺／事務局・白山未知子／
会計監査・松和子

【周立東爺より】

三十年前に「和」に参加させていただき、創立した岡田一とさんには様々にご指導いただきました。「鶴彬句集」を一緒に作ったことを思い出しています。新しい川柳会のあり方を考えていきたいと思えます。

五月二十九日、石川県川柳協会の交流句会に参加、挨拶してきました。

◆編集後記

6月28日、「鶴彬・大人の授業」が計画されています。表紙に紹介しました。仕事の合間にチラシ配布や挨拶回りをやっているため会報が大幅に遅れました。深くごす
m(")m

和川柳社

連絡先・編集室：金沢市金石東2丁目15-30（渡辺方）

電話：076-254-0762 pc-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp